

## 授業科目

## 海外フィールド実習

担当教員名 久保 雅義、古西 勇、菊元 孝則、神田 賢	対象学年	1・2・3・4	対象学科	理学
	開講時期	後期	必修・選択	選択
	単位数	1	時間数	45

## ディプロマポリシーとの関連性

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	◎	◎	◎	◎

## 授業の概要

海外研修への参加がこの授業の中核である。しかし、そのための事前調査や研修準備、さらに研修後のレポートの作成やリフレクションなどの全過程をもって「海外フィールド実習」とする。

## 授業の目的

日本は既に高齢社会への道のりを世界に先駆けてたどり始めている。これからの保健医療福祉分野には「過去のやり方の延長」を超える新しいやり方が求められており、その担い手となるためには「幅広い視野」を持ち、新しいやり方を実践できる行動力が必要とされる。

海外フィールド研修を通じて、専門領域である理学療法分野にとどまらず、社会・文化などより包括的な視点から新しい価値を認識し、さらに新しい価値の創出を提案できる能力を身につける。

## 学習目標

- 保健医療福祉の分野での、日本のシステムとフィールド研修でおとずれた国のシステムの違いについて説明することができる。
- 施設見学・大学の講義参加などの活動をとおり、コミュニケーション能力を高めることができる。
- フィールド実習のスケジュール・活動内容について、みずから調査し立案することができる。

## 授業計画

回数	授業計画・学習の主題	学習方法・学習課題・備考	担当教員
1-5	海外研修前の事前準備	事前準備には、1) 研修先の医療・健康・福祉分野について調べ理解をふかめておく、2) 現地でのコミュニケーションを充実させるための語学準備、そして3) 旅程全体の企画・管理がふくまれ、その全てにおいて主体的な参加が求められる。	久保 雅義、古西 勇 他
6-20	海外研修中の活動	研修中は、提示してあるものを「見るだけ」の見学ではなく、専門職をめざす学生としての立場から積極的にコミュニケーションをとる姿勢が求められる。インターネットなどでも調べられる客観的な事実だけでなく、実際にその場に立つことで得られる主観的な感想も含めた記録をすることが研修中の課題となる。	久保 雅義、古西 勇 他
21-25	海外研修後の活動	研修中の記録をもとに振り返りをおこない、研修参加者全体で報告書を作成し提出する。また、国際交流・貢献についての動機付けについてディスカッションを行う。	久保 雅義、古西 勇 他

## 使用図書

使用図書	書名	著者名	発行所	発行年	価格	その他
教科書						
参考書						
その他の資料						

## 評価方法

海外フィールド実習に対する、1) 事前・研修中・事後の3つの相での「主体的な参加」と2) 提出された報告書が評価の対象となる。

## 履修上の留意点

履修登録は、春季集中授業の履修内容確認期間までに、『履修の手引き』に記載されている手続き方法に従って必ず行うこと。履修登録を行わなかった場合は、たとえ研修に参加していても、この科目の単位は修得できない。

## オフィスアワー・連絡先

kubo@nuhw.ac.jp (久保: E204) またはkonishi@nuhw.ac.jp (古西: E201b) でアポイントメントをとること。